

2026年3月10日(火)～3月22日(日) 11～18時(土日祝日は19時まで開廊) 3月16日(月)は休廊 入場無料

KOGEI

東京工芸大学 中野キャンパス6号館 1F、2F、B1F 東京都中野区弥生町1-10

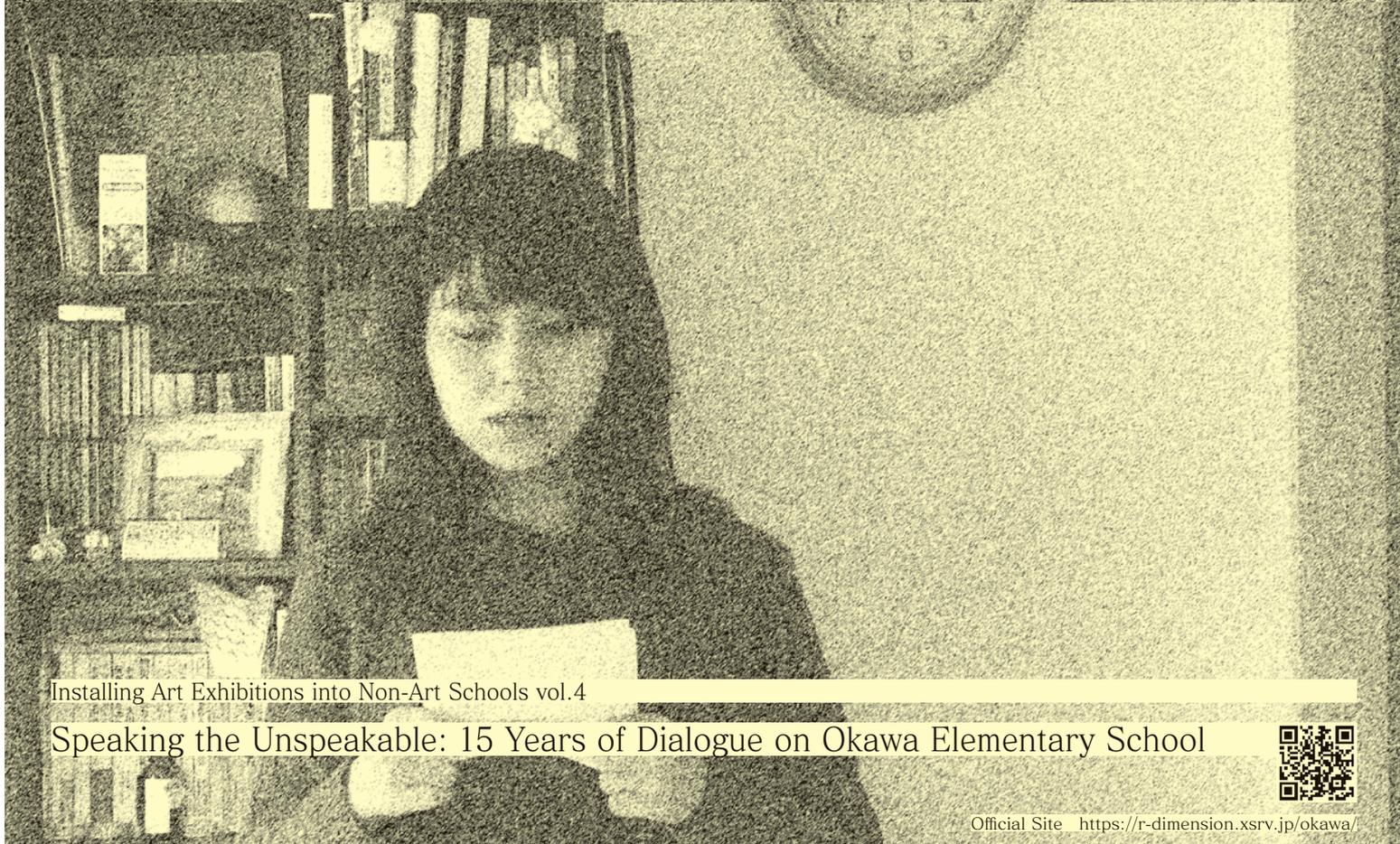
主催 東京工芸大学インタラクティブメディア学科アート&メディア研究室(野口ゼミ) 共催 学術変革領域(A)顔身体デザインC01「死する身体／不在の身体」 企画 野口靖 企画協力 丹羽朋子、小森真樹、三行英登
Organized by: Art & Media Lab., Dept. of Interactive Media, Tokyo Polytechnic University Co-hosted by: Transformative Research Area (A) Face-Body Design (C01) The body in death / The body in non-existence
Project Direction: Yasushi Noguchi Direction Support: Tomoko Niwa, Masaki Komori, Hideto Miyuki

March 10 (Tue) – March 22 (Sun), 2026 11:00–18:00 (open until 19:00 on weekends and holidays) Closed on Monday, March 16 Free Admission

Venue: Tokyo Polytechnic University, Nakano Campus, Building 6 (1F, 2F, B1F), 1-10 Yayoi-cho, Nakano-ku, Tokyo

美大じゃない大学で美術展をつくる vol.4

語りにくさを語る—大川小をめぐる15年の対話



Installing Art Exhibitions into Non-Art Schools vol.4

Speaking the Unspeakable: 15 Years of Dialogue on Okawa Elementary School



Official Site <https://r-dimension.xsrv.jp/okawa/>

語りにくさを語る—大川小をめぐる15年の対話

Installing Art Exhibitions into Non-Art Schools vol.4 Speaking the Unspeakable: 15 Years of Dialogue on Okawa Elementary School

震災から15年。石巻市立大川小学校で起きた悲劇は、行政責任を問う訴訟などを経て、社会の中で「語りにくい」出来事となりました。本展は、この「語りにくさ」を見つめ直し、多層的な記憶や語りのあり方を提示する試みです。会場では、遺族らによる伝承活動の記録や表現のアーカイブを紹介するほか、新たに制作された対話型プログラムなどを展示します。特筆すべきは、震災の直接的な記憶を持たない大学生が共同制作者として参加している点です。学生たちは対話を通じ、自らの視点で困難な遺産(Difficult Heritage)に向き合います。

本展が、多様な立場の人々の参与によって、「語りにくい」出来事を「語りうる」物語へと編み直していく、世代を超えた対話の場となることを願っています。(企画代表 野口靖)

Fifteen years after the disaster, the tragedy at Okawa Elementary School in Ishinomaki has come to be regarded as an unspeakable incident, shaped by lawsuits questioning administrative responsibility and their aftermath. This exhibition reconsiders that unspeakability and explores multilayered forms of memory and narration.

The exhibition presents archives of memorial and storytelling activities by bereaved families, together with newly developed interactive dialogue-based programs. Notably, university students without direct memories of the disaster participate as co-creators, engaging with difficult heritage through dialogue from their own perspectives.

Through the participation of diverse people, including generations with no direct experience of the disaster, this exhibition aims to become a space for intergenerational dialogue that re-weaves an unspeakable incident into speakable stories. (Director: Yasushi Noguchi)



プログラム Programs

○=展示 ◇=上映 ☆=ワークショップ

1. 「継ぐ言葉 — 災禍の表現と私/私たちの応答」
桑原応宝・平子七海・丹羽朋子・三行英登 ○☆
2. 「記憶と選択」(アート&メディア研究室学生プロジェクト)
山岡由紀那・小林翼・小孫作樂・富山京子 ○
3. 「拓く」(アート&メディア研究室学生プロジェクト)
永井希実・岩澤楓・北村亞輝・具彦霖 ○
4. 「大川伝承の会」活動紹介展示 ○
5. 『生きる』大川小学校 津波裁判を闘った人たち 監督:寺田和弘 ◇
6. 『春をかさねて』『あなたの瞳に話せたら』 監督:佐藤そのみ ◇
7. 『語りにくさを語る』展参加者が「言葉」で対話する》小森真樹 ○☆
8. 「ソナエトーク」スマートサブライビジョン ○◇
9. 「51分と13年」野口靖・三行英登 ○

上映スケジュール Screening Schedule (予定)

内容、時間が変更になる可能性があります。最新情報は公式サイトで必ずご確認ください。

- 「春をかさねて」「あなたの瞳に話せたら」
① 3/14(土)・15(日) 11:15~12:45 ② 3/22(日) 12:00~13:30
- ソナエトーク(オンライントークの録画動画) 3/14(土)・15(日) 13:00~15:00
- 「生きる」 3/20(金) 11:45~14:00(上映後に寺田監督のトーク40分)
- 「生きる」 3/21(土) 11:15~13:30

イベント Events

会期中にトークイベント、ワークショップ、ギャラリートゥアーを多数開催予定です。内容が変更になる可能性があるため、最新情報は公式サイトで必ずご確認ください。

【交通】

地下鉄/東京メトロ丸ノ内線・都営地下鉄大江戸線—中野坂上駅下車 徒歩約11分
1番出口より山手通りを初台・大橋方向に進み、トランクルーム・スベラボの先を右折



【公式サイト】
<https://r-dimension.xsrv.jp/okawa/>

主催 東京工芸大学インタラクティブメディア学科
アート&メディア研究室(野口ゼミ)
共催 学術変革領域(A)顔身体デザインCOI「死する身体/不の身体」
後援 東京工芸大学
企画 野口靖 企画協力 丹羽朋子、小森真樹、三行英登

【お問い合わせ】アート&メディア研究室・野口
Mail: noguchi45213@int.t-kougei.ac.jp Tel: 03-5371-2728

協力 石井美保、大川伝承の会、合同会社きろくびと、佐藤敏郎、
一般社団法人スマートサブライビジョン
3がつ11にちをわすれないためにセンター(せんだいメディアテーク)
只野英昭、田中みわ子、東京工芸大学インタラクティブメディア学科、徳原拓哉
(敬称略・五十音順)

2026年3月10日(火)~22日(日) 11~18時(土日祝日は19時まで開廊) 3月16日(月)は休廊 入場無料

東京工芸大学 中野キャンパス6号館 1F、2F、B1F 東京都中野区弥生町1-10 KOGEI

Design: Takasuke Onishi(direction Q)